

令和7年度 学校評価書（共通） 後期

校名 宇和島市立畑地小学校

1 自己評価書

教育目標	ふるさとを愛し、一人ひとりの笑顔があふれる畑地っ子の育成
基本方針	1 一人ひとりのよさを伸ばし、基礎・基本の定着を図りながら知・体・徳の調和のとれた児童の育成に努める。 2 ふるさとを愛し、ふるさとに貢献しようとするシビックプライドの醸成を目指し、学校運営協議会と連携した地域とともにある学校づくりを推進する。 3 教職員の一人ひとりのよさを生かし、幅広い研修を通して、教職員の指導力と学校の組織力を高める。
本年度重点目標	◎「畑地ならではの」畑地だからこそできる」教育活動の推進 1 特別支援教育の充実と人権・同和教育の推進 2 確かな学力を育てる教育の推進 3 生きる力を育てる教育の推進 4 働き方改革の推進 5 安心して学習できる環境の整備 6 学校・家庭・地域が連携・協働した特色ある学校づくり

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	B
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B
			ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B
	③	家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A
	(成果と課題) ・iPadの効果的な活用により、児童の学習への興味・関心が高まっているが、粘り強く学習に取り組んでいく力については課題がある。 ・朝読書や読み聞かせを実践し、マスターウィーク等で読書時間も調査したことで、読書への意欲が少しずつ高まり始めた。 ・地域行事に積極的に参加し、地域の方々との交流を通して、畑地への郷土愛が芽生えた。				
	(改善策等) ・個に応じた学習指導を継続し、基礎学力を定着させていく。また、協働学習や多様な教材の活用を通して、主体的に学ぶ授業づくりを実践する。 ・読書集会等で、興味・関心のある本の紹介や読書の価値等を伝え、読書習慣の啓発を今後も行っていく。 ・今後も、教職員及び児童が積極的に地域に出向き、協働的な学びを実践し、主体的に学ぶ児童を育成していく。				

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B B	B
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B A	B
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B
	③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B A	B
	④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B B	B
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B B	
	(成果と課題)					
	・異学年との班活動や集会活動を実践したことで、相手の立場に立って考えることができる児童が、高学年を中心に増え始めた。 ・児童の良好な人間関係づくりのサポートや、寄り添った個別・全体指導等を行ったが、児童の心理面には、今後も十分な配慮が必要である。					
	(改善策等)					
	・集会活動等で、自分の考えや思いを言葉にして伝えることを継続し、表現力豊かな児童を育成する。 ・児童の頑張りや成長を認め、自己肯定感を育成していく。また、児童自身の思いを受け止めながら、しっかりと児童の話を傾聴する姿勢を持つ。					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	B	B
	(成果と課題) ・今年度は、校時の見直しを実施したため、放課後の時間を有効活用できるようになった。しかし、勤務時間が長くなっている教職員もいるため、今後も組織としての業務の効率化を図る必要がある。 ・教職員減で、業務の分担等も限られるため、組織としてサポート体制が弱いことに課題がある。					
(改善策等) ・見直しを持った行事の計画や準備を行い、自分自身の業務が滞ることがないような「働き方改革」を今後も継続する。 ・教職員間のコミュニケーションを図り、些細な内容でも「報告・連絡・相談」等を今後も継続していく。互いを認め、助け合うことができる温かな人間関係作りに努める。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	B	A
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	B	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	A	
	(成果と課題) ・地域学校協働活動推進員の活躍で、年々、地域の方々とのつながりが強くなっている。 ・地域の方々の支えが非常に大きく、総合的な学習の時間や生活科等の学習が充実し、地域と学校が連携した教育活動を実践することができた。					
	(改善策等) ・地域及び学校運営協議会委員の方々からの様々な協力に感謝し、関わりから得た学びを、学習活動へつなげていく。 ・地域学校協働活動推進員の協力のもと、地域素材や人材を活用し、学校・家庭・地域が連携して教育活動を実践する。					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満